

普及活動情勢報告

情勢報告（平成26年9月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

情勢報告

J A 四万十ニラ部会支部会（8月26日～9月3日）



ニラ部会5支部で現地検討会、支部会が行われました。現地検討会では、立性品種と慣行品種の生育状況比較やセルトレイ育苗の生育状況を確認しました。支部会では、普及所から株養成期の管理作業やアザミウマ防除対策、産地課題総合戦略の取り組み状況等について報告しました。

農家からは「灌水量を確保するためにチューブ灌水の導入を検討したい」「地域の担い手確保は大事」等の意見が聞かれました。

J A 四万十ハウス胡瓜部会総会及び販売額一億円突破記念祝賀会（9月19日）



部員全員(10戸)が参加した総会では、今年度活動報告、次年度事業計画及び予算等の協議が行われました。その後の研修会では、J Aと普及所からヒートポンプの利用実績や省エネ対策の説明、取引市場4社と園芸連を交え出荷規格等についての活発な意見交換も行われ、品質はトップクラスと言う評価を頂きました。

引き続き行われた販売額一億円突破記念祝賀会は、昨年の夏秋ピーマンに続く快挙ということで関係者33名が参加し大変盛り上がりしました。

スプレーギクのみカンキイロアザミウマ対策検討会（8月29日）



J A高知はた大正支所スプレーマム部会は、病害虫専門技術員を交えてみかんキイロアザミウマが媒介するウイルス病対策検討会を開きました。

農家からは、対策をしてもなおウイルス病が発生しており経営を圧迫しているとの声があがりました。

普及所としてはJ Aと連携しながら、考えられる対策を農家が実施できるよう引き続き支援をしていきます。

J A 四万十にこまるブランド化に向けた視察研修（9月3日）



ブランド化先進産地である‘土佐天空の郷’の取り組みについて農家3名、J A 営農指導員2名、普及員2名が視察研修しました。参加した農家は、育苗方法や標高が高い場所での栽培上の苦勞などについて意見交換しました。その後、吉延の棚田を視察し、農家・J A と共に生産現場を肌で感じる事が出来ました。普及所は今後もJ A と連携しながらJ A 四万十‘にこまる’のブランド化推進に向けて、生産農家への指導・助言を行っていきます。

J A 高知はた栗部会目慣らし会及び特選栗の説明会（9月8日、12日）



十和、大正地区で栗の目慣らし会と特選栗の説明会が開催され、生産者36名が参加しました。目慣らし会では選果の徹底や炭そ病果実の除去について、説明会では新たな基準について説明がありました。特選栗への参加者は、個別巡回や総会等での推進により、23名に増えました。今後も普及所では、関係機関と連携して、四万十の栗再生に向けた取り組みを支援していきます。

床鍋生産機械組合総会（9月5日）



こうち型集落営農組織である床鍋生産機械組合の臨時総会が行われ、組織活動の継続・強化に向けて、法人化を図ることを決定しました。集落営農の将来の担い手の確保等の大きな課題を念頭に、まず、できること（組織の法人化）から取り組むことになりました。普及所は、関係機関と連携して、支援していきます。